

愛知県公立大学法人
平成29年度業務実績に関する評価結果

平成30年9月

愛知県公立大学法人評価委員会

目 次

はじめに	1
第1 全体評価	
1 評価結果と判断理由	2
(1) 評価結果	
(2) 判断理由	
ア 項目別評価	
イ 評価に当たって考慮した項目	
2 評価に当たっての意見、指摘等	5
第2 項目別評価	
1 法人運営の改善に関する項目	
(1) 評価結果	6
(2) 業務達成に向けての取組、進捗状況	6
ア 特筆すべき項目[評価Ⅳ]	
イ 遅れている項目[評価Ⅱ]	
ウ 法人による自己評価と評価委員会の評価が異なる項目	
(3) 評価に当たっての意見、指摘等	6
2 財務内容の改善に関する項目	
(1) 評価結果	7
(2) 業務達成に向けての取組、進捗状況	7
ア 特筆すべき項目[評価Ⅳ]	
イ 遅れている項目[評価Ⅱ]	
ウ 法人による自己評価と評価委員会の評価が異なる項目	
(3) 評価に当たっての意見、指摘等	7
3 教育及び研究並びに組織及び運営に対する自己点検・評価及び情報の提供に関する項目	
(1) 評価結果	8
(2) 業務達成に向けての取組、進捗状況	8
ア 特筆すべき項目[評価Ⅳ]	
イ 遅れている項目[評価Ⅱ]	
ウ 法人による自己評価と評価委員会の評価が異なる項目	
(3) 評価に当たっての意見、指摘等	8

4	その他業務運営に関する重要項目	
(1)	評価結果	9
(2)	業務達成に向けての取組、進捗状況	9
	ア 特筆すべき項目[評価Ⅳ]	
	イ 遅れている項目[評価Ⅱ]	
	ウ 法人による自己評価と評価委員会の評価が異なる項目	
(3)	評価に当たっての意見、指摘等	9
5	教育研究等の質の向上に関する項目	
(1)	進捗状況の確認結果	10
(2)	各大学の教育研究等の質の向上に関する進捗状況	11
	【県立大学】	11
	ア 小項目進捗状況	
	イ 業務達成に向けての取組、進捗状況	
	(ア) 特筆すべき項目(年度計画を上回って実施している)	
	(イ) 遅れている項目(年度計画を十分には実施していない)	
	(ウ) 法人による自己点検と評価委員会の判断が異なる項目	
	ウ 進捗状況の確認に当たっての意見、指摘等	
	【芸術大学】	13
	ア 小項目進捗状況	
	イ 業務達成に向けての取組、進捗状況	
	(ア) 特筆すべき項目(年度計画を上回って実施している)	
	(イ) 遅れている項目(年度計画を十分には実施していない)	
	(ウ) 法人による自己点検と評価委員会の判断が異なる項目	
	ウ 進捗状況の確認に当たっての意見、指摘等	

<参考>

参考資料

○	愛知県公立大学法人の各事業年度の業務実績評価実施要領	15
○	愛知県公立大学法人評価委員会委員名簿	18

はじめに

愛知県公立大学法人の平成29年度の業務実績について、「愛知県公立大学法人の各事業年度の業務実績評価実施要領」に基づき、中期計画に定めた項目について、下記のとおり評価を行った。

記

評価は、平成29年度における中期計画の各項目の進捗状況を確認する「項目別評価」と、その結果等を踏まえつつ、中期計画の進捗状況全体について総合的に評価する「全体評価」により行った。

評価項目のうち、「教育研究等の質の向上」については、教育研究の特性に配慮し、学校教育法に規定する認証評価機関の評価結果を踏まえて、中期計画総合評価で評価することとしており（注）、平成29年度は、事業の外形的・客観的な進捗状況の確認を行った。

なお、平成29年度の評価に当たっては、これまで各大学が重点的に行ってきた取組を確認した上で、評価作業を行った。

注：地方独立行政法人法

第79条 評価委員会が公立大学法人について（中略）中期目標の期間における業務の実績に関する評価を行うに当たっては、学校教育法第109条第2項に規定する認証評価機関の教育及び研究の状況についての評価を踏まえることとする。

（参考） 中期計画（平成25年度～平成30年度）に定める項目

大項目	小項目	うち
		29年度評価対象項目数
第1 教育研究等の質の向上に関する目標	65	64
第2 法人運営の改善に関する目標	10	10
第3 財務内容の改善に関する目標	3	3
第4 教育及び研究並びに組織及び運営に対する自己点検・評価及び情報の提供に関する目標	3	2
第5 その他業務運営に関する重要目標	7	7
計	88	86

第1 全体評価

1 評価結果と判断理由

(1) 評価結果

存在感と信頼感のある「誰もが誇りに思う大学」を目指し、自立した個人として時代に向き合い、地域・世界に貢献できる人材を育成する教育の充実に重点的に取り組むという中期目標の方向性に沿って

中期計画をおおむね順調に実施していると認められる。

(2) 判断理由

項目別評価の結果を踏まえ、事業の実施状況・業務の運営状況など、法人の活動全体について評価した。

ア 項目別評価

項目別評価結果一覧

大項目	評価					項目別評価の内容
	S	A	B	C	D	
法人運営の改善に関する目標		○				6頁
財務内容の改善に関する目標				○		7頁
教育及び研究並びに組織及び運営に対する自己点検・評価及び情報の提供に関する目標		○				8頁
その他業務運営に関する重要目標		○				9頁
教育研究等の質の向上に関する目標	(事業の外形的・客観的な進捗状況) 順調に実施していることを確認					10頁

※ 評価基準

- S 特に優れた実績を上げている。
- A 順調に実施している。
- B おおむね順調に実施している。
- C 十分に実施できていない。
- D 業務の大幅な見直し、改善が必要である。

イ 評価に当たって考慮した項目

中期目標の方向性に沿って実施された平成29年度の実績について、法人による自己点検・自己評価を検証した結果、特筆すべき（高く評価した）項目、遅れている項目、特記事項記載等の項目を次のとおり確認し、全体評価に当たって考慮した。

<特筆すべき（高く評価した）項目>

【教 育】

○看護師国家試験の合格率 [13：県立大学]

- ・看護師国家試験の合格率について、100%を達成
- ・保健師、助産師国家試験についても、合格率100%を達成

○学生の地域貢献活動の支援 [26：県立大学]

- ・「留学生的愛知ガイドづくり」などの地域貢献活動の着実な実施
- ・「地域ものづくり学生共同プロジェクト」において、地元企業のPR支援のみならず、商品開発や産業観光イベントを実施

○分野・専攻・コース・領域の枠にとらわれない学修体制の促進 [48：芸術大学]

- ・「病院アウトリーチプロジェクト」を始動させ、院内コンサートを実施するのみならず、東海地方初の医学と芸術の連携・協力に関する包括連携協定を藤田保健衛生大学と締結
- ・古典絵画の修復実習等に、学部生及び大学院生が参加するとともに、外部の芸術文化活動に積極的に参加

○在学生から卒業生まで幅広いキャリア支援 [55：芸術大学]

- ・「芸術学生のための合同企業説明会」の出展企業数の増加
(平成28年度55社→平成29年度72社)
- ・学生の将来設計、目標設定を促すための「OB・OG通信」を作成、配布
- ・「エマージングコンサート」を継続実施するとともに、在学生や卒業生を対象とする「若手芸術家育成プロジェクト」を新たに実施

【地域連携・貢献】

○愛知県の政策・施策の推進支援 [37：県立大学]

- ・愛知県の審議会等委員に参画するとともに、「あいち地域づくり連携大学」を実施
- ・愛知県の新規事業である「IoT導入促進事業実施委託業務」の実施機関に選定され、新たに2件のプロジェクトを創出

【自己点検・評価及び情報の提供】

○大学のブランド・知名度の向上に向けた広報活動 [80]

- ・両大学の広報機能の推進体制を明確化するとともに、法人全体としての広報活動計画の策定や広報連絡会議を立ち上げ
- ・大学一丸となって広報活動に取り組み、積極的に記者発表を行い、新聞掲載件数が増加

<遅れている項目>

【財務内容】

○一般管理費比率（一般管理費／〔業務費＋一般管理費〕）の対前年度比減 [78]

- ・一般管理費比率の対前年度比減という数値目標の不達成

<特記事項記載等の項目>

【研 究】

○科学研究費補助金の申請率 80%以上 [35：県立大学]

- ・29年度科研費申請率が、前年度に引き続き目標の80%を上回る86.5%を達成

○科研費及びその他の助成金への申請件数 20件以上 [61：芸術大学]

- ・29年度の申請件数が、前年度に引き続き目標の20件を上回る24件を達成

【地域連携・貢献】

○自治体、産業界、他大学、地域社会との連携による人材育成 [62：芸術大学]

- ・常滑市において、地域活性のため芸術文化創生拠点「鈴浜藝塾」の創設を目指し、活動を展開

【法人運営】

○職員の資質向上のための組織的な取組の推進 [73]

- ・名古屋大学との人事交流を継続するとともに、新たに愛知県へ1名派遣を実施

2 評価に当たっての意見、指摘等

平成29年度は目標達成に向けた様々な取組を着実に進め、中期計画をおおむね順調に実施していることは評価できる。

第二期中期目標期間の6年間のうち5年が経過し、仕上げの段階に入った。理事長のしっかりとしたガバナンス体制の下、これまで実施されてきた様々な取組の成果が表れてきている。引き続き、法人や教職員が一体となり、中期目標の最終的な達成に向けて取組を十分に進めていただきたい。

第2 項目別評価

1 法人運営の改善に関する項目

(1) 評価結果

S	特に優れた実績を上げている。(特に認める場合)	評価区分ごとの項目数	I	II	III	IV	計
A	順調に実施している。(すべてⅢ～Ⅳ)	ウェイト考慮後の合計	0	0	10	0	10
B	おおむね順調に実施している。(Ⅲ～Ⅳが9割以上)	評価区分ごとの項目数の内訳			10		10
C	十分に実施できていない。(Ⅲ～Ⅳが9割未満)	組織運営の改善			4		4
D	業務の大幅な見直し、改善が必要である。(特に認める場合)	人材の確保・育成			4		4
		効率的・合理的な業務執行			2		2

評価区分	
I	年度計画を実施していない。
II	年度計画を十分には実施していない。
III	年度計画を十分に実施している。
IV	年度計画を上回って実施している。

(2) 業務達成に向けての取組、進捗状況

ア 特筆すべき項目 [評価Ⅳ]

なし

イ 遅れている項目 [評価Ⅱ]

なし

ウ 法人による自己評価と評価委員会の評価が異なる項目

なし

(3) 評価に当たっての意見、指摘等

なし

2 財務内容の改善に関する項目

(1) 評価結果

S	特に優れた実績を上げている。(特に認める場合)
A	順調に実施している。(すべてⅢ～Ⅳ)
B	おおむね順調に実施している。(Ⅲ～Ⅳが9割以上)
C	十分に実施できていない。(Ⅲ～Ⅳが9割未満)
D	業務の大幅な見直し、改善が必要である。(特に認める場合)



評価区分ごとの項目数	I	II	III	IV	計
ウェイト考慮後の合計	0	1	2	0	3
評価区分ごとの項目数の内訳		1	2		3

評価区分

- I 年度計画を実施していない。
- II 年度計画を十分には実施していない。
- III 年度計画を十分に実施している。
- IV 年度計画を上回って実施している。

(2) 業務達成に向けての取組、進捗状況

ア 特筆すべき項目 [評価Ⅳ]

なし

イ 遅れている項目 [評価Ⅱ]

[78] 一般管理費比率（一般管理費／〔業務費＋一般管理費〕）の対前年度比減

一般管理費比率については、効率的な経費の執行をしたものの、対前年度比減という目標をわずかに達成できなかった。

ウ 法人による自己評価と評価委員会の評価が異なる項目

なし

(3) 評価に当たっての意見、指摘等

なし

3 教育及び研究並びに組織及び運営に対する自己点検・評価及び情報の提供に関する項目

(1) 評価結果

S	特に優れた実績を上げている。(特に認める場合)
A	順調に実施している。(すべてⅢ～Ⅳ)
B	おおむね順調に実施している。(Ⅲ～Ⅳが9割以上)
C	十分に実施できていない。(Ⅲ～Ⅳが9割未満)
D	業務の大幅な見直し、改善が必要である。(特に認める場合)

評価区分ごとの項目数	I	II	III	IV	計
ウェイト考慮後の合計	0	0	1	1	2
評価区分ごとの項目数の内訳			1	1	2
評価の充実			1		1
情報公開等の推進				1	1

評価区分
I 年度計画を実施していない。
II 年度計画を十分には実施していない。
III 年度計画を十分に実施している。
IV 年度計画を上回って実施している。

(2) 業務達成に向けての取組、進捗状況

ア 特筆すべき項目 [評価Ⅳ]

なし

イ 遅れている項目 [評価Ⅱ]

なし

ウ 法人による自己評価と評価委員会の評価が異なる項目

[80] 大学のブランド・知名度の向上に向けた広報活動

法人自己点検「年度計画を十分に実施している」

→ 評価委員会判断「年度計画を上回って実施している」

理由

広報機能の強化と情報発信力の向上のため、各大学の広報機能の推進体制を明確化するとともに、法人全体としての広報活動計画の策定や、広報連絡会議の立ち上げなど、法人と各大学が一丸となって広報活動に取り組んだ。

また、積極的に記者発表を行った結果、学生による地域連携事業等の特徴的な取組が取り上げられるなど、新聞掲載件数も前年度より大幅に増加したことから、「年度計画を上回って実施している」と評価できる。

(3) 評価に当たっての意見、指摘等

[80] 大学のブランド・知名度の向上に向けた広報活動

広告媒体が多様化している中、伝えたい情報が着実に伝わるよう、これまで以上に体系的、戦略的な広報活動を推し進めていくことを期待したい。

4 その他業務運営に関する重要項目

(1) 評価結果

S	特に優れた実績を上げている。(特に認める場合)
A	順調に実施している。(すべてⅢ～Ⅳ)
B	おおむね順調に実施している。(Ⅲ～Ⅳが9割以上)
C	十分に実施できていない。(Ⅲ～Ⅳが9割未満)
D	業務の大幅な見直し、改善が必要である。(特に認める場合)



評価区分ごとの項目数	I	II	III	IV	計
ウェイト考慮後の合計	0	0	7	0	7
評価区分ごとの項目数の内訳			7		7
施設・設備の活用及び安全管理			4		4
社会的責任及び法令遵守			3		3

評価区分	
I	年度計画を実施していない。
II	年度計画を十分には実施していない。
III	年度計画を十分に実施している。
IV	年度計画を上回って実施している。

(2) 業務達成に向けての取組、進捗状況

ア 特筆すべき項目 [評価Ⅳ]

なし

イ 遅れている項目 [評価Ⅱ]

なし

ウ 法人による自己評価と評価委員会の評価が異なる項目

なし

(3) 評価に当たっての意見、指摘等

なし

5 教育研究等の質の向上に関する項目

(1) 進捗状況の確認結果

【事業の外形的・客観的な進捗状況】

各大学について、いずれも

順調に実施していることを確認

* 「教育研究等の質の向上に関する目標」に関する項目は、教育研究の特性に配慮し、認証評価機関の評価結果を踏まえて評価するため、専門的な観点からの評価は実施せず、事業の外形的・客観的な進捗状況の確認を行う。

<参考>

[各大学別小項目進捗状況]

区 分		教育	研究	地域連携 ・ 貢献	合計	(%)
年度計画を実施していない	総合	0	0	0	0	0.0
	県大	0	0	0	0	0.0
	芸大	0	0	0	0	0.0
年度計画を十分には実施していない	総合	0	0	0	0	0.0
	県大	0	0	0	0	0.0
	芸大	0	0	0	0	0.0
年度計画を十分に実施している	総合	39	9	11	59	92.2
	県大	27	5	7	39	92.9
	芸大	12	4	4	20	90.9
年度計画を上回って実施している	総合	4	0	1	5	7.8
	県大	2	0	1	3	7.1
	芸大	2	0	0	2	9.1
計	総合	43	9	12	64	100.0
	県大	29	5	8	42	100.0
	芸大	14	4	4	22	100.0

(2) 各大学の教育研究等の質の向上に関する進捗状況

【 県立大学 】

ア 小項目進捗状況

区分	教育	研究	地域連携 ・ 貢献	合計	(%)
年度計画を実施していない	0	0	0	0	0.0
年度計画を十分には実施していない	0	0	0	0	0.0
年度計画を十分に実施している	27	5	7	39	92.9
年度計画を上回って実施している	2	0	1	3	7.1
計	29	5	8	42	100.0

イ 業務達成に向けての取組、進捗状況

(ア) 特筆すべき項目(年度計画を上回って実施している)

[13] 教育：看護師国家試験の合格率

看護師国家試験の合格率について、新卒者の全国水準を上回るのみならず、合格率100%を達成した。

さらに、保健師、助産師国家試験についても合格率100%を達成した。

[26] 教育：学生の地域貢献活動の支援

「留学生的愛知ガイドづくり」などの地域貢献活動を着実に実施するとともに、「地域ものづくり学生共同プロジェクト」において、地元企業のPR支援に留まらず、プロジェクト終了後も連携を継続し、ランドセルの商品開発や、自治体とも連携した外国人向け産業観光イベントの実施に繋がった。

[37] 地域連携・貢献：愛知県の政策・施策の推進支援

愛知県の審議会等に教員が委員として参画するとともに、愛知県や他大学との協働による「あいち地域づくり連携大学」を引き続き実施するなど、愛知県の政策・施策への支援を行った。

また、愛知県の新規事業である「IoT 導入促進事業実施委託業務」の実施機関に選定され、県立大学の次世代ロボット研究所に専用相談窓口を開設するとともに、セミナー及びワークショップを開催し、プロジェクトの創出支援を行った結果、2件のプロジェクト創出に至った。

(イ) 遅れている項目(年度計画を十分には実施していない)

なし

(ウ) 法人による自己点検と評価委員会の判断が異なる項目

[4] 教育：教養教育に関する外部評価の実施

法人自己点検「年度計画を上回って実施している」

→ 評価委員会判断「年度計画を十分に実施している」

理 由

年度計画は、教養教育センターのあり方及び教養教育カリキュラムの自己点検と、外部評価の実施を目標としており、それ自体の達成度合いで評価されるものである。外部評価委員による評価結果や具体的な取組内容については、中期計画の評価において検証すべきものであり、そのことを理由として、「年度計画を上回って実施している」とは判断できない。

ウ 進捗状況の確認に当たっての意見、指摘等

[4] 教育：教養教育に関する外部評価の実施

年度計画を着実に実行し、教養教育に取り組んできたことは評価できる。第三期に向けて、更なる充実に向けた改善又は見直しを実施することを期待したい。

【芸術大学】

ア 小項目進捗状況

区分	教育	研究	地域連携 ・ 貢献	合計	(%)
年度計画を実施していない	0	0	0	0	0.0
年度計画を十分には実施していない	0	0	0	0	0.0
年度計画を十分に実施している	12	4	4	20	90.9
年度計画を上回って実施している	2	0	0	2	9.1
計	14	4	4	22	100.0

イ 業務達成に向けての取組、進捗状況

(ア) 特筆すべき項目(年度計画を上回って実施している)

[48] 教育：分野・専攻・コース・領域の枠にとらわれない学修体制の促進

「病院アウトリーチプロジェクト」を立案し、病院における芸術活動に特化した講座を音楽合同で開講するとともに、藤田保健衛生大学及び愛知県がんセンターにおいて院内コンサートを開催した。

さらに、「病院アウトリーチプロジェクト」を進める中で、藤田保健衛生大学と、東海地方初となる、医学と芸術の連携・協力に関する包括連携協定を締結し、実践的な教育の充実を図った。

また、古典絵画の修復実習や文化財保存修復研究所の修復作業への学生参加により、学部生及び大学院生に技術・知識を習得する機会を与えるとともに、「あいちトリエンナーレ大学連携プロジェクト」等の外部の芸術文化活動に積極的に参画した。

[55] 教育：在学生から卒業生まで幅広いキャリア支援

「芸術学生のための合同企業説明会」において、出展企業数を 17 社増やすとともに、学生の将来設計、目標設定を促すためのキャリア支援の取組として、OB・OG の仕事内容・やりがい等をまとめた冊子「OB・OG 通信」を新たに作成し、配布した。

また、昨年始動した演奏家育成プログラム「エマージングコンサート」を継続実施するとともに、アーティストとしてのキャリア形成に必要なスキル・知識を身につけるため、在学生や卒業生を対象とした講座「若手芸術家育成プロジェクト」を新たに実施した。

(イ) 遅れている項目(年度計画を十分には実施していない)

なし

(ウ) 法人による自己点検と評価委員会の判断が異なる項目

なし

ウ 進捗状況の確認に当たっての意見、指摘等

[64] 地域連携・貢献：栄サテライトギャラリー展覧会等入場者数 4,000 人
契約更新の合意に至らなかったため、閉廊はやむを得ないが、新たに開設予定のサテライトギャラリーにおいては、入場者数の増加に向けて、近隣の愛知芸術文化センターなどとの連携を図ることにより、一層の周知に努められたい。

参考資料

○ 愛知県公立大学法人の各事業年度の業務実績評価実施要領

1 趣旨

愛知県公立大学法人評価委員会（以下「評価委員会」という。）が行う愛知県公立大学法人（以下「法人」という。）の各事業年度の業務実績に関する評価（以下「年度評価」という。）の実施に関し必要な事項を定める。

2 評価方針

年度評価は、次に掲げる方針により行う。

- (1) 大学の教育研究の特性や大学運営の自主性・自律性に配慮しつつ、大学改革の推進に向けた継続的な質的向上に資する。
- (2) 中期計画に定めた項目ごとの各年度における具体的な実施状況について調査・分析し、進捗状況等の達成度を踏まえた業務全体を評価することにより、業務運営の改善、充実に資する。
- (3) 評価の過程を通じて、法人の業務達成に向けての取組、進捗状況を明確にすることにより、県民への説明責任を果たす。
- (4) 評価に関する作業が法人の過重な負担とならないように配慮する。

3 評価方法

年度評価は、各年度における中期計画の各項目の進捗状況を確認する「項目別評価」と、その結果等を踏まえつつ、中期計画の進捗状況全体について総合的に評価する「全体評価」により行う。

年度評価の実施にあたっては、法人が中期計画の項目ごとに各年度における業務実績を記入し、その進捗状況を法人自らが評価した業務実績報告書（以下「報告書」という。）を作成し、評価委員会に提出する。

評価委員会は、報告書に基づき法人からヒアリングを行い、調査・分析し評価する。

なお、戦略性が高く意欲的な計画等は、達成状況の他にプロセスや内容を評価する等、積極的な取組として適切に評価する。

① 項目別評価

当該年度計画に定める各項目について、その達成状況を確認することにより、各年度における中期計画の進捗状況を確認し、以下のア～ウにより評価する。

なお、「教育研究等の質の向上に関する目標」に関する項目は、教育研究の特性に配慮するため、認証評価機関の評価結果を踏まえて評価する。

したがって、年度評価においては、専門的な観点からの評価は実施せず、法人は、中期計画の項目ごとに事業の外形的・客観的な進捗状況を記述式により記載し、評価委員会は、その確認を行うこととする。

ア 法人による自己点検・自己評価

法人は、報告書において中期計画の小項目ごとにⅠ～Ⅳランクの4段階で評価し、計画の実施状況及び判断理由を記載する。

また、大項目ごとの特記事項に法人として特色ある取組や大学運営を円滑に進めるための工夫などアピールできる事項等を記載する。

ランク	評 価 基 準
Ⅳ	年度計画を上回って実施している。
Ⅲ	年度計画を十分に実施している
Ⅱ	年度計画を十分には実施していない。
Ⅰ	年度計画を実施していない。

イ 評価委員会による法人の自己評価の検証

中期計画の小項目ごとに、法人の自己評価や計画設定の妥当性も含めて総合的に検証し、達成状況について上記の4段階で評価を行うとともに、法人による自己評価と評価委員の判断が異なる場合には、その理由等を示す。

また、必要に応じて、特筆すべき点や遅れている点についてコメントを付す。

ウ 評価委員会による評価

小項目ごとの評価結果と特記事項の記載に基づき、大項目ごとに進捗状況について、S、A、B、C、Dランクの5段階で評価する。

なお、小項目ごとの評価結果については、あらかじめ法人が項目ごとの重要性を考慮して設定したウエイトを踏まえて評価する。

ランク	評 価 基 準
S	特に優れた実績を上げている。(特に認める場合)
A	順調に実施している。(すべてⅢ～Ⅳ)
B	おおむね順調に実施している。(Ⅲ～Ⅳが9割以上)
C	十分に実施できていない。(Ⅲ～Ⅳが9割未満)
D	業務の大幅な見直し、改善が必要である。(特に認める場合)

※大項目で「Ⅲ～Ⅳが9割未満」の場合については、Ⅱ以下となった項目の重要性・計画の実施状況等を勘案した上で、総合的に評価する。

② 全体評価

項目別評価の結果を踏まえ、事業の実施状況、業務の運営状況など、法人の

活動全体について記述式により評価する。

4 報告書の提出

報告書は、別紙様式により、毎年6月末日までに評価委員会に提出する。

5 評価結果

- (1) 評価結果は、法人に通知する。
- (2) 評価委員会は、必要があると認めるときは、法人に対して業務運営の改善その他の勧告を行う。
- (3) 評価委員会は、前2項における内容を知事に報告するとともに、公表する。
- (4) 知事は、前項の報告を受けたときは、その旨を議会に報告する。

6 評価結果の反映

- (1) 評価結果がB～Cランクの項目については、法人が自主的に業務運営の改善等の所要の措置を講ずる。
- (2) 評価結果がDランクの項目については、原則として業務運営の改善その他の勧告を行う。

○ 愛知県公立大学法人評価委員会委員名簿

氏 名	職 名
梅原 秀哲	名古屋工業大学大学院工学研究科教授
岡田 亜弥 (委員長代理)	名古屋大学副理事 名古屋大学大学院国際開発研究科教授
九鬼 綾子	ミックインターナショナル株式会社代表取締役
佐藤 元彦 (委員長)	愛知大学経済学部教授 (前理事長・学長) 豊橋技術科学大学監事
二村 友佳子	公認会計士・税理士 名古屋工業大学監事

(五十音順、敬称略)